



中央アジア地域ニュース

アゼルバイジャン：カスピ海産天然ガス搬送ルート

(11月12-14日付現地報道)

1. ナブコ・パイプライン

アリエフ産業エネルギー相の発言：

アゼルバイジャンは現時点においてナブコ・パイプラインにガスを供給しうる唯一の国であり、最近のイランを巡る政治的趨勢を見るに、イランからの供給については見通しが暗い。同パイプラインの権益シェアは、技術的評価及び資本投資が定まってから決定されるのであり、現下の主要な問題点は、関係国の利害、態度、参加へのコミットメントにある。

2. カスピ海縦断パイプライン

11月6日、トルクメニスタンのベルディムハメドフ大統領は、ブリュッセルでのソラナ EU 共通外交安全保障上級代表との会談で、トルクメニスタンは、カスピ海縦断ガス・パイプライン敷設構想を積極的に支持しており、2009年中にも同パイプラインの建設が可能であると述べると共に、カスピ海の法的地位問題は、沿岸諸国により近日中に解決されるとの見通しを示した。

3. トルコ・ギリシャ間ガス・パイプライン

今月18日、トルコ・ギリシャ間のガス・パイプライン開通式典がトルコにて開催される予定である。同式典には、両国首相に加え、アゼルバイジャン大統領及びイタリア首相が参加する予定。アゼルバイジャン産天然ガスをトルコ経由でギリシャに搬出することを目的とする本パイプライン建設に関する契約は2002年に締結された。全長285km、総工費2.5億ユーロである。当初の生産量は、年間2.5億立米、今後15年以内に年間115億立米を目指す。